

第56回プログラミング・シンポジウム開催に際して

プログラミングシンポジウムも56回めである。今回のシンポジウム参加者の多くが生まれる前から行われていることになる。始めのころは計算機が貴重で相当に高価なものであったし、計算能力も現在からみれば微々たるものであったが、この間の発達はめまぐるしいものがあって一家に何台ものコンピュータがある時代となった。しかも世界中のコンピュータがネットワークでつながっている。小生がこの巻頭言を書くことになって3回目だが、前回、前々回にもセキュリティの問題や原発事故とロボット、サイバー攻撃、ロボットによる戦争などにふれた。

ところでこれまでに挙げた問題のほかに個人情報保護の問題がある。いろいろなデータが電子化されてきており、コンピュータで処理されている、個人情報保護法ができて10年以上になるが、いろいろこの法律に抵触する事件がいまだに起きている。また、ネットで買い物ですれば、その情報をもとにいろいろな勧誘が殺到しているのではないか。一方巷を歩けば監視カメラにその状況を記録されている。テレビの警察ものなのでは監視カメラの映像が解決の決めてとなっているものがよくでてくるが、これでは個人情報の取り扱いはどうなっているのだろうかと思われる。

このほど衆議院が解散され12月14日が投票日の総選挙が行われた。一票の価値が2倍超の選挙区があるというが、これで総理大臣を選ぶ投票は各議員同じ一票だ。ところで、今回投票率は52%台であった。有権者のほぼ半数しか投票していないことになる。報道によれば若者の投票率が特に低いらしい。そこで若者の投票率を上げるため次のような妄想を試みた。即ち投票をネットワークを介してできるようにすることだ。そうすれば各候補の主張や業績などはネットを検索すれば得られるだろうし、投票も、ながらスマホの感覚でできる。ちなみに筆者はスマホを持っていないが若者はそうではないだろう。投票結果の集計も簡単であって投票とともに完了なので出口調査にたよる必要ない。ところで、今回の結果で、特別会での内閣総理大臣指名選挙で選ばれた議員の衆議院における獲得票は公表されるであろう。それに基づいて、選ばれた総理に投票した各議員の選挙区における今回総選挙の得票を合計すれば有権者の支持数が得られるので、総有権者に対する支持の割合は足し算と割り算ができればよいので小学校の算数の問題である。もちろん選挙区の数だけの加算をせねばならぬので本当の小学生には困難だろうが。しかしネットワークでの選挙にはかなりの問題を解決する必要があるようだ。例えば、従来の方法でやりたい人とネットワークでやりたい人

の識別、ネットワークでの投票と従来法との2重投票の防止、ネットワークでの投票、投票における認証などである。これらの件はじつは現在の技術で大したことはないように思われる。問題は、例えば認証に必要な個人情報の完全な電子情報化だとかサイバー攻撃に耐えられるシステム作りなどである。最大の問題点は前者で、国民総背番号制などの問題があって心ある市民の賛同は得られまい。ここで私は現実に引き戻された。

ところで私ごとながら今年 Knuth の “The T_EXbook” というのをおそまきながら読んだ。とは言っても本文を読み終えたところで各マクロの詳細は未だ読んでない。しかしプレイン T_EX のシステムで何が行われているのか解って大変楽しかったし、Knuth というひとをかいま見られた気がした。今回 TeX に関係するマニアックな発表もあるらしいので楽しみだ。

さて、夏のシンポジウムはプログラミングにおける「インターフェイス」について、美しさという観点からの扱いということで開催された。従来2泊3日程度の泊まり込みで議論してきた夏のシンポジウムであったが、2012年に日帰りで開催されてから日帰り3回めの開催である。そろそろ、この開催方法の検討をする時期かもしれない。皆さんのご意見を乞う次第である。冬の方は伊東で開かれるのは2回めであるので皆さんが迷うようなことはないと思う。幹事の皆さんの努力のおかげで開催にこぎつけることができた。お礼申し上げる。

2014年12月

プログラミング・シンポジウム委員会
委員長 辻 尚史